

平成21年5月13日
原子力安全対策課
(21-8)
<17時30分記者発表>

敦賀発電所1号機の定期検査状況について (制御棒駆動水圧系統ベント弁シート部の傷)

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所1号機（沸騰水型軽水炉；定格出力35.7万kW）は、第32回定期検査中（平成20年11月7日開始）で、現在、制御棒駆動水圧系統^{※1}の耐震裕度向上工事として、サポートを含め当該系統配管の一部を交換している。この工事終了後に行う耐圧試験の準備として、当該系統内の空気を抜くために設置されているベント弁全146台（73基×2）について点検を行ったところ、13台の弁のシート部に傷や浸透探傷試験による指示模様が確認され、このうち3台（入口側2台、出口側1台）で、弁座のシート面を横断する傷が認められた。

今後、傷や指示模様の発生原因等について調査を行う。
この事象による環境への放射能の影響はない。

※1 制御棒を水圧によって原子炉内へ挿入または引き抜きするために駆動水を供給する系統。

(経済産業省によるINESの暫定評価尺度)

基準1	基準2	基準3	評価レベル
—	—	0—	0—

INES：国際原子力事象評価尺度

問い合わせ先(担当：吉田)
内線2352・直通0776(20)0314

敦賀発電所 1号機 制御棒駆動水圧系統ベント弁点検状況図

